

平成 25 年度の用具検査等の実施方法について

既にご案内しておりますとおり、平成 25 年 4 月 1 日より新ルールの適用が始まりますが、併せて新しい用具検査の方法が導入されますことを、お知らせいたしますとともに、競技会に参加される選手、役員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、検査方法等についての詳細は各加盟団体の事務局又は審判員にお問い合わせください。

記

基本的な考え方

全参加者に対して行われている競技前検査の検査項目を大幅に減らします。

逆に、本選の結果から、成績が上位でファイナル出場が想定される選手については、本選後のフォローアップ検査で全項目の検査を受験いただく方法です。

1) 対象競技会は、日本記録対象試合となります。

2) 具体的な検査方法

全参加選手は用具検査用紙(コントロールカード)を提示し、競技前検査を受験いただきますが、検査手順は次のとおりです。

①選手は、従来どおりコントロールカードに必要事項を記載し、以下の項目と参加確認を兼ねて銃砲所持許可証、協会会員証ほかのチェックを受ける。

・ ジャケット、パンツに関しては選手の体型の変化に関わる要素について検査。

〔 ジャケット前合わせ、グラブとジャケット袖との重なりほか。

なお、材質や形が可変しにくいもの(ジャケットとパンツの厚さと固さ、靴、ベルト、スリング、尻パット、目隠し板等。)は1次検査を省略。

・ 銃に関しては、バットプレート、APの引き鉄の重さ、ピストルの大きさほかの可変部分を検査

②本選終了後、成績上位者(ファイナル出場が想定される選手)は①の検査で除外されていた項目を加えた完全検査を受けていただきます。

その結果、ルールに基づき、規定回数でパスできなければ、失格となります。

〔 服装関係については、2回まで

ピストルの引き鉄の重さについては、3回まで

3) 選手・監督への競技会でのフォロー体制について

選手、監督の不安感を解消する為に、フォロー体制を準備し、競技開始前に選手が自ら試みの検査をすることができる体制を整備します。

①競技会において、主催者は競技会で使用する検査測定用具を準備し、選手が希望する場合には、随時自主検査を実施できるように機材と係員1名を配置した体制をもつ。

②自主検査において、自主検査結果票を交付する。

4) 選手・監督への競技会以外の場所でのフォロー体制について

①TD 資格者の中から、検査を熟知した者を選抜し、検査測定用具の準備ができている射場と組み合わせて、競技会以外の日々の練習時にも自主検査ができるようにする。

②自主検査において、自主検査結果票を交付する。

③協会は、自主検査ができる場所と対応する TD のリストを公開する。

5) 自主検査ができる場所について

現在、自主検査ができる射場は次のとおりです。この中には、競技会当日のみ実施する射場もありますので、各実施主体者にご連絡のうえ利用ください。

地域	射場	実施主体者	TD	備考
東北	宮城県 石巻	宮城県ライフル	菅野利雄	①競技会開催時 ②上記以外は事前に相談ください。
中部	岐阜	岐阜県ライフル	上野茂男	①4月27、28日(全国 JR BR 大会会場：岐阜メモリアルセンター) ②上記以外の実施日は改めて連絡します。
近畿	大阪府 能勢	近射連と関西学連	平瀬紘一 佐川肇 久富卓郎	①競技会開催時 ②上記以外は事前に相談ください。
中国	広島県 筒賀	広島県ライフル	永井康雄	①競技会開催時 ②上記以外は事前に相談ください。
九州	長崎県	長崎県ライフル		9月以降に実施します。
関東	検討中			

「以上」